

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



上吉野分教会

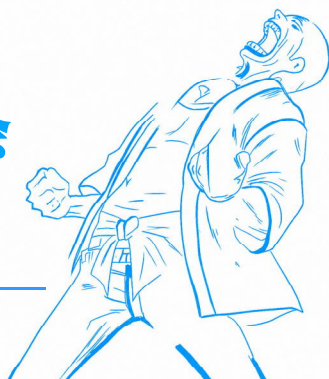
大正14年5月1日 設立(日本橋部属高沼分教会)
昭和28年10月17日 所属変更・移転・改称

立教189年11月23日(月)午前10時(9時受付)

天理教青年会笠岡分会

青年会長様御臨席総会

～親孝心を、生きる～



立教189年
6月号

おつとめ・式典
感話・抽選会(16時終了予定)



コロンビアの道を話される清水先生

海外伝道講習会 講話

コロンビアの道に

ようこそ

5月月次祭後

海外部

海外部(上原志郎部長)は5月21日、祭典講話に替えて「海外伝道講習会」を開催、講師として本部署員・清水直太郎先生(元海外部員・元ラテンアメリカ課長・元コロンビア出張所長)を招いた。

清水先生は、「コロンビアの道にようこそ講座」と銘打って、

プロジェクトで映像を映し出しながらプレゼンテーション形式でユーモアを交えて分かり易く話された。講話の内容は次の通り。

ラテンの世界を皆さんに紹介します。日本とラテンアメリカでの「価値観の違い」とはどういうことか?それは「どこを変えれば品変わる」ということです。天理教の教えでは変わらない部分があります。おつとめや鳴り物、そういう教祖の教えは変えてはいけません。ところが、やはり時代、地域によって変えなくてはいけないという部分があるのです。それを今風で言う「アップデート(更新)」です。これが必要なのです。

メキシコからアルゼンチンの先までをラテンアメリカといいます。私たちは日本人は、人間関係を育み、育てる、欠かれないために、建前と本音を持っています。ラテンアメリカの人は直球です。まっすぐ来ます。良い言い方で言えば情熱的です。ただ、ちょっと過激のかなと思います。日本人は同一文化。ラテンアメリカは多民族文化。そして日本人は「継続は力なり」、ラテンアメリカの人は「宝くじ、一発勝負」で

す。私は空手の師範で、アメリカ、ラテンアメリカでも審判をしておりました。空手道は本当に現地で役に立ちました。世界の試合を見て、日本の試合と違うな、やっぱ「どこを変えれば品変わる」と気がついたのです。2人で対戦することを組手と言いますが、この組手の試合、世界空手道連盟が決めたルールがあります。上段蹴りで決めると3ポイント入る、突きは、いくらか良い突きをしても1ポイント。ルールでは8ポイント差で勝敗が決まりますから一発が好きなの外国人はみんな蹴り技を使う。日本人はコツコツ一本ずつ中段突きとか上段突きをやる。日本人は、察するというのが美德。私もこうだと思っから、あなたもそうであつて、お隣もそうじゃないか、だからそういうあるべきだつていうのが基本になっています。一方、ラテンアメリカは隣に住む人は同じ言葉を喋るか、同じ言葉は多分喋れるかもしれませんが人種が違ふ、肌の色が違ふかもしれない。だから私は私、私の考えがこうだから隣もこうだとは考えない。だからいくら仲良くなつても隣と距離を感じます。

コロンビアと聞くと、やはり怖い、

治安が悪い。確かにゲリラとか抗争とか麻薬などがあり、否定はしません。コロンビアの出張所がある街、カリに私の空手道場がありますが、治安が悪くなつて戒厳令が出ると練習が休みになります。戒厳令とは、国家が停止してしまい軍隊が統治する、禁酒や外出の制限などがあります。こんなことを言うとコロンビアのイメージが悪くなりますから、コロンビアの良いところを言います。やっぱコーヒーですよね。そして人間性は本当に人懐っこいのです。向こうに行つて、暮らしたらよく分かります。コロンビアの人は、人との楽しみを第一に優先します。人とのつながりの手段としてパーティー、お祭りをします。ラテンの人たちは陽気でしょう? 常に私は幸せなんだよと思つているのです。その証拠にある習慣があります。それは社交の金曜日。金曜日の夕方から、みんなで食事とかダンスとかコンサートなど、通りには屋台が出てみんなで楽しむ。公園では仮設のテントを立てて、そこで踊ります。ダンスが好きですからね。

コロンビア出張所の教勢は300人から400人の信者、用木リストには200人ぐらい載っていますが、月次祭の奉仕者は

40人、50人来ればいいほうで合わせて100人ぐらいです。今はコロナの影響で少なくなり、60人ぐらいが参拝されます。コロンビアのお道は、トゥマコというところに1960年から62年の間に天理高校の2部生、農事部の方をバナナ園の開拓に送ったという事に始まります。当時、2代真柱様はコロンビアの日本大使と親交があり、バナナ農園を開拓するからその事業に人材派遣をと頼まれ、17名の天理青年を送られました。2代真柱様は天理青年を送ってすぐに卒業証書を渡しに行かれ、宿舎を「あらし寮」と名付けられました。一緒に夕づとめをされて、夕食を共にしたそうです。その時に2代真柱様が言われた言葉があります。1

つ目は、「お前たちに布教をしるとか、そういうことは言わん。言わんし、またできんやろう。だけど天理教とはなんだと聞かれたら、私を見てくださいという精神でやれ。これが大きな布教になるんだ。」これは有名な言葉です。その次に「自分がこの土地を踏んだという伏せ込みを何かやって来い。ここへ来た事実を事実として、しっかりと足場を固めておけ。」という言葉で言われたんですね。私はこれを読んだ

時に、そうか、ここへ来たという事実を何かにしてやろうと思いました。それからバナナ園は、厳しい気候や環境から3年で頓挫しました。1964年からコロンビアに残る方、また日本に帰られる方と分かれ、その頃から教会本部と海外布教伝道部が支援をしました。そして1972年3月、天理教コロンビア出張所が創立され、初代の太田哲三先生が就任、そこから数えて7代目が私でした。

コロンビア出張所長就任式の2010年11月14日から1年3ヶ月後にコロンビア出張所創立40周年が行われると決まりました。私はどうすればいいか、何かしなくてはいけないと思いましたが、おつとめを見ても、みんなそんなふうまく踊れない。鳴り物も楽譜を見て、これではいけない。おつとめの練習をしようと思い、お休みの日ごとにおつとめ研修会、教理研修会、よふぼく決起の集いをしました。しかしながらそれはコロンビアのリズムと合わなかった。「ところ変われば品変わる」郷に入って郷に従わなかったのです。ある日、コロンビアの信者さんが私の前に来て「所長、今日は何の日か知っていますか?」「え、祝日じゃないん

ですか?」「そんな祝日のこと言っているんじゃないんですよ。今日はね、コロンビアのワールドカップの予選が始まっているんですよ。行事をやっている時じゃないですよ。それに大体ね、サッカーの試合がある日は、そんな行事入れたらダメですよ」とダメ出しをされました。

この1年3か月、どういうふうにして人を集めようかと思い、2つのことをやりました。1つは、ひのきしんです。出張所は修繕、草刈などいろいろなことが必要で、平日であつても人が来てくれました。また先ほど社交の金曜日と言いましたが、そういう楽しい場所を出張所にすればいいんだと、金曜日の夕づとめ後、今日はた焼き、今日は焼きそばをなどと集まったのです。それが後の青年会、少年会のスタッフになってくれたり、日本語の先生になったり、よふぼくになりました。そしてもう1つは、40周年は舞台も食事も私たちの手作りでしょうということにしたのです。手間はかかりましたが、出張所に足を運んでくれる人が昼も夜も増えました。40周年では鼓笛隊も復活させて開催しました。500人に近い人が来てくれました。そして16人が

おぢばがえりをして、修養科に入ることになりました。

その後、ひのきしんや教理勉強を行うコロンビアセミナー、また天理教紹介講座を行いました。この紹介講座というのは、天理教基礎講座の出張編です。出張して市内のアパートの集会場や、個人宅、ホテルの地下駐車場などで天理教の説明、コロンビア人の感話、おつとめ、最後におさづけを取り次ぎました。どうしてこのように色々なことを行つたかという、やはり路傍講演とか神名流し、戸別訪問、そういうのはできない地域だからです。それから方向転換して、どうしたら良いのだろうと思つた時に、教祖のひながたがあつたのです。教祖が神のやしろとなられてから10年目、お針子をとれ、針の生徒さんをとれ、裁縫教室をやりなさいという神様のお言葉です。長男の秀司様も読み書きを教えておられました。「これや、やつぱり文化活動を中心にする」と思い、空手道場、そして以前から続いていた日本語教室、書道教室などいろいろやりました。そして、雅楽も立ち上げました。

2023年に教会本部に帰り、海外とは全然違う部署に行きました。そう

したら、あれ？ ちょっと空気が違うなど感じ、他の先生に「これいい方法ありますよ。こうしたらどうですか？」などと言うと「そんなんやめどけ、あかん、前例がない。」と言われたんです。神様もそういう風に言ってるのかなど思っ、本部員先生に聞いたり、文献を調べたら、次のようなおさしづがりました。「この道というは何がいかに、彼がいかにと言うは、道へらすようなものや。何も減ったのやない。多くの中不思議やなあ、不思議やなあと言うは、何処から見ても不思議が神である。」このおさしづの前に「何も御供効くのやない。心の理が効くのや。」という有名なおさしづがあります。御供が金平糖から洗米に変わる時のおさしづです。形にこだわりすぎたり、そんなことで道のりを変えたりするのではなく、心の理に神が守護するのだ。その見えてくる不思議な姿こそ神の姿なんだ。願う心の誠から見える利益が神の姿である、そういう言葉もあります。色々な世代、地域の人、時代とともに変化しています。柔軟な考え方、色々な角度、視点を持っていた方がいいと思います。世界は今、ギクシャクしていますよね。こういう世の

中だからこそ、感謝し合い、助け合い、笑顔いっぱい陽気暮らしが必要なのです。

今はスマホ、生成AIなどが発達しています。それも上手な使い方をしたり取り入れたら良いと思います。会長さんや役員さんは、若者の信者さんの意見に耳を傾けてください。本当に良いことを言います。悪いこともあるかもしれませんが、まだ未熟なことも言うかも知れませんが、どんどん耳を傾け、話し合いをしてください。これが大事だと思います。信仰のスタイルは、時代と共に更新する。ところ変われば品変わる。実践する。郷に入れば郷に従



海外部員との懇談会



ストライク目指して投げる



親里の学生同士、絆を深めた

学生担当委員会は、5月24日、「親里管内学生のつどい」を開催し、天理

大学、天理高校1部、2部、天理教語学院の学生8人が参加した。

**「親里管内
学生のつどい」開催
学 担**

え。妥協ではなくて、確実に教えを伝える手法、手段を。そして最後に、こだわりなくして笑顔。高橋優の「福笑い」という曲にもありますが、世界の共通言語は英語じゃなくて笑顔です。笑顔で笠岡の方もお勇みください。ご清聴ありがとうございます。
(整文・部員 鳥井悠加)



盛り上がったレクリエーション

この日の午前中は、ボーリング大会を開催した。ゲームは、白熱したものととなり、盛り上がりを見せた。また、午後からのレクリエーションの時間では、学生が考えたゲームで、笑いの絶えないひとときとなった。

参加した学生は、同じ親里の学生同士の親睦を深めた。

(委員長 上原 繁次)

「委員長後継者講習会」開催 婦人会

婦人会(上原愛美支部長)は、5月31日、「委員長後継者講習会」を開催、15人の後継者が参加しました。

10時開講、神殿でおつとめをつとめた後、会場を会議室に移し、支部長から参加者に思いが伝えられました。支部長は、教祖140年祭後も引き続き、みちのだいとしてひながたをたどり陽気ぐらしの台となるべくつとめようと促されました。参加者たちは、真剣に支部長のお話を傾け、教祖140年祭の意義や自分に実践できることなどを再確認しました。

続いて、大教会長様から座りづとめ

をお手直しいただきました。これは、本年の活動方針の1つ「おつとめの大切さを学び真実の心で勤めよう」に



真剣に思いを伝える支部長



手真似をする参加者



大絶賛のバイキング

沿って設けられたもので、大教会長様より手指の形から一手一手の振り方まで細かくご指導いただき、参加者も大教会長様のお手を食い入るように見つめながら思わず手真似をする人もいました。

支部長のお話で胸は一杯になりましたが、お手を振ってお腹がペコペコになったところで昼食時間となりました。昼食はバイキング形式で行われ、婦人会の先輩奥様方が整えてくださった品々に舌鼓を打ちながら思い思いに

「全会員対象のおぢばがえり」実施 婦人会

婦人会(上原愛美支部長)は、昨年6月に開催された「笠岡支部総会」の御礼団参として、6月3日に「全会員対象のおぢばがえり」を実施、67人の会員が参加しました。

前日まで台風6号が直撃するのとこのとで、団参の実施が危ぶまれましたが、お天気のご守護をいただき、雨風も止んで、有り難く嬉しい気持ちでおぢばがえりをさせていただきました。当日のスケジュールは、11時30分に

談笑し、こどもたちも楽しんで喜んでる姿が微笑ましかったです。

午後からは2班に分かれてサイコロトークが行われ、信仰の気付きやそれぞれの思いを賑やかに話したり、悩みなどを真剣に話したりして、それぞれにとっても実りあるサイコロトークとなりました。

こうして14時閉講、参加者は身も心もいっぱいになったところで散会しました。(記録係 内海 純子)

お礼のおつとめをつとめさせていただき、続いて教祖殿・祖霊殿を参拝、後にお茶所で昼食、その後基礎講座を受講しました。

基礎講座では、天理教用語を用いない基本教理の説明や、講師の先生のおたすけ話を聞かせていただいて勇みを頂きました。

今回のお礼団参は、総会から1年越しにはなりましたが、支部長が交代し、教祖の年祭も迎えさせていただいて、これからより一層、婦人会活動が自らの心の成人の糧となるよう、勇んで通らせて頂きたいと思う団参となりました。ありがとうございました。

(上原 愛美 可)

五月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

親神様には「月日にハとのよな事も一れつに みなにをしへてよふきづくめに」日々は旬々の天然自然の御守護を下されると共に つとめを始めよるづ委細をお教え下さり 陽気ぐらしへとお導き下さいます事は誠に有り難く勿体ない極みでございます 私共は日々喜びと感謝の気持ちを中心に湛えつつ朝夕に御礼申し上げると共に 一人でも多くの人にこの喜びを伝えるべくたすけ一条の御用の上に努め励まして頂いております

その中にも今日の吉日はこの教会の五月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同明るく陽気に勇んで座りづとめをどりをつとめさせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供たちが 相共にお歌を唱和し 同じ思いに伏し拝む真実の姿をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいませようお願い申し上げます

さて今月は直轄教会に巡教を行い 今年一年の歩みと次の塚への歩みについて確認を致しました 次の塚へ向かつての歩みを進める上で心の成人をお誓いし 目的を明確に持ったおぢばがえりの実践を通して成人の歩みを進めさせて頂く所存でございます また本日は清水直太郎先生にお越し頂き「海外伝道講習会」を開催致します 世界一れつたすけたいとの親の思いに沿いきるべく お話をしっかりと胸に治めて道の弘めに努めさせて頂きたく存じます

何卒親神様には 年祭のこの年 教祖に喜んで頂けるようたすけ一条に励む皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして お望み下さる陽気づくめの世の状に一日も早く建て替わりますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百八十九年 五月月次祭 祭典役割表

祭主		扈者		講話		区分		役割		地方	
大	教	中	村	中	村	海外	座りづとめ	前	後	田	森
会	会	道	道	外	義	伝	づ	半	半	中	本
長	長	德	善	道	太	道	と	前	後	村	忠
様	様	郎	善	講	郎	道	め	半	後	村	善
			之	習		講				隆	之
			今	会		話				之	今
			川	習		七				田	吉
			昌	習		月				三	岡
			彦	習		七				代	誠
			中	習		月				温	一
			島	習		七				生	郎
			誠	習		月				隆	之
			治	習		七				之	田
			中	習		月				田	中
			村	習		七				中	村
			道	習		月				隆	道
			德	習		七				之	善
			杉	習		月				杉	原
			原	習		七				代	温
			善	習		月				温	生
			朗	習		七				生	隆
			門	習		月				隆	之
			脇	習		七				之	田
			元	習		月				田	中
			教	習		七				中	村
			上	習		月				隆	道
			原	習		七				之	善
			浩	習		月				杉	原
			郎	習		七				代	温
			虫	習		月				温	生
			明	習		七				生	隆
			立	習		月				隆	之
			生	習		七				之	田
			教	習		月				田	中
			浅	習		七				中	村
			野	習		月				隆	道
			明	習		七				之	善
			教	習		月				杉	原
			中	習		七				代	温
			村	習		月				温	生
			初	習		七				生	隆
			美	習		月				隆	之
			様	習		七				之	田
			大	習		月				田	中
			教	習		七				中	村
			会	習		月				隆	道
			奥	習		七				之	善
			様	習		月				杉	原
			前	習		七				代	温
			奥	習		月				温	生
			順	習		七				生	隆
			子	習		月				隆	之
			様	習		七				之	田
			上	習		月				田	中
			原	習		七				中	村
			順	習		月				隆	道
			子	習		七				之	善
			様	習		月				杉	原
			大	習		七				代	温
			教	習		月				温	生
			会	習		七				生	隆
			奥	習		月				隆	之
			様	習		七				之	田
			前	習		月				田	中
			奥	習		七				中	村
			順	習		月				隆	道
			子	習		七				之	善
			様	習		月				杉	原
			上	習		七				代	温
			原	習		月				温	生
			順	習		七				生	隆
			子	習		月				隆	之
			様	習		七				之	田
			大	習		月				田	中
			教	習		七				中	村
			会	習		月				隆	道
			奥	習		七				之	善
			様	習		月				杉	原
			前	習		七				代	温
			奥	習		月				温	生
			順	習		七				生	隆
			子	習		月				隆	之
			様	習		七				之	田
			上	習		月				田	中
			原	習		七				中	村
			順	習		月				隆	道
			子	習		七				之	善
			様	習		月				杉	原
			大	習		七				代	温
			教	習		月				温	生
			会	習		七				生	隆
			奥	習		月				隆	之
			様	習		七				之	田
			前	習		月				田	中
			奥	習		七				中	村
			順	習		月				隆	道
			子	習		七				之	善
			様	習		月				杉	原
			上	習		七				代	温
			原	習		月				温	生
			順	習		七				生	隆
			子	習		月				隆	之
			様	習		七				之	田
			大	習		月				田	中
			教	習		七				中	村
			会	習		月				隆	道
			奥	習		七				之	善
			様	習		月				杉	原
			前	習		七				代	温
			奥	習		月				温	生
			順	習		七				生	隆
			子	習		月				隆	之
			様	習		七				之	田
			上	習		月				田	中
			原	習		七				中	村
			順	習		月				隆	道
			子	習		七				之	善
			様	習		月				杉	原
			大	習		七				代	温
			教	習		月				温	生
			会	習		七				生	隆
			奥	習		月				隆	之
			様	習		七				之	田
			前	習		月				田	中
			奥	習		七				中	村
			順	習		月				隆	道
			子	習		七				之	善
			様	習		月				杉	原
			上	習		七				代	温
			原	習		月				温	生
			順	習		七				生	隆
			子	習		月				隆	之
			様	習		七				之	田
			大	習		月				田	中
			教	習		七				中	村
			会	習		月				隆	道
			奥	習		七				之	善
			様	習		月				杉	原
			前	習		七				代	温
			奥	習		月				温	生
			順	習		七				生	隆
			子	習		月				隆	之
			様	習		七				之	田
			上	習		月				田	中
			原	習		七				中	村
			順	習		月				隆	道
			子	習		七				之	善
			様	習		月				杉	原
			大	習		七				代	温
			教	習		月				温	生
			会	習		七				生	隆
			奥	習		月				隆	之
			様	習		七				之	田
			前	習		月				田	中
			奥	習		七				中	村
			順	習		月				隆	道
			子	習		七				之	善
			様	習		月				杉	原
			上	習		七				代	温
			原	習		月				温	生
			順	習		七				生	隆
			子	習		月				隆	之
			様	習		七				之	田
			大	習		月				田	中
			教	習		七				中	村
			会	習		月				隆	道
			奥	習		七				之	善
			様	習		月				杉	原
			前	習		七				代	温
			奥	習		月				温	生
			順	習		七				生	隆
			子	習		月				隆	之
	</										

末の弟のまなざし

12し

▼5カ月の霧が晴れて

令和8年1月、澄雄兄が亡くなった。葬儀は笠岡詰所で執行された。2月だったか、50日祭が終わり、「僕の兄弟も、これで全滅やなあ」と、改めて感無量の思いがこみあげてきた。1月は直轄教会の大祭参拝、2月、3月は部内巡教と勤めさせて頂いた。

4月、順子の姉の連れ添いが亡くなった。葬儀には、僕はよう行かなかった。行っても話す人がいない、世代が替わって私はもうゴミのような感じだろうと思った。代わりに繁次と順子に行ってもらった。5月、直轄教会の巡教に出させて頂いた。義理の兄と澄雄兄の出直しが、遠い事のように感じられて、「僕、大丈夫かなあ」と思っている中に、義理の兄の50日が勢白分教会で行われた。勇を鼓して順子、繁次と参拝させて頂いた。帰りの車の中で、もう1年祭は来たくないなあと思った。

18日が島根分教会の巡教で前日、出雲大社、稲佐ノ浜、日御碕と廻った。

天候に恵まれ灯台の上から日本海を眺めて、ちよつと現実感が戻ってきたように感じた。この5カ月、何してたんだろうと、ふと思った。両親は遠い昔に亡くして、今回、兄を全部亡くして、夢に出てくるのは、兄達と思っていたけれど、両親まで懐かしそうに出てくる、夜中にふつと目覚めて、大丈夫かなあ、とふと思ったり、ついには、初代様まで出てきたり、僕も八十の隈路に足踏み入れたのかな、と思ったり。

18日島根の祭典終わって、会長さん、由志園を案内して頂いて、牡丹と芍薬、石楠花が同じ種類と知って、今度はフト、豊明兄の家の玄関横に石楠花が満開に咲いているのを思い出したり、そう言えば、豊明兄はベーターベンが好きやったなあ、あの家の地下室でテープに録音した楽聖の曲を聴いたもんや、と思ったり、息子治さんと五目並べをしたのを思い出したり。

今A Iの00さんの曲、聞いてます。「涙色のホーム」チリアーノの「私だけの十字架」五輪まゆみ「恋人よ」だんだんと現実感が戻ってきたので、教祖にお願ひして、また、兄弟の思い出書かせて頂く事にしました。まずは、豊明兄から。



4月18日・19日は土曜日・日曜日と重なった為、教祖誕生祭にバス団体で行きかかせて頂くこととなりました。

そんな中、別席団体と銘打って初席者5人に来て頂くことができました。しかし、ここから、大変なこととなりました。

19日に初席を受けさせて頂くよう予定を組んでいたところ、18日の詰所夕食前に、バス団体に参加して頂いた19歳位の4人の若い人が、親から別席のことを言われ「私達も初席を受けたい」とのことでした。

断ることもできず、また、別席願ひを作るにも時間がかかることもわかっていたため、最初の3人に、次回の参拝に初席をお願いしたところ、「次回はよろしくお願ひします」とのことでした。

ごたごたとする中、詰所先生方々に多大なるお力添えをいただき、やつのこと、19日朝から無事初席を受けさせて頂くことができました。有難うございました。(K.I)

詰所からのお願い

詰所での宿泊・喫食について

- 詰所で宿泊・喫食される場合は、「教会名・代表者名・泊数・食数」を、2日前までには、必ず詰所へご連絡ください。
- 食事をしない(宿泊のみの)場合でも、2日前には申し込みをして下さるようお願い致します。

試案 天理教笠岡大教会史

昭和四十一年(立教百二十九年・1966年)

昭和四十九年(立教百三十七年・1974年)

教祖九十年祭三年千日第二年目

しかも、年頭会議の席上、大教会長様は、

——表統領先生は昨年より倍のご守護を頂けと言われるが、昨年の皆様の成人の上からは、単に倍すればよいという訳のものではないので、このように定めさせて頂いた。どうか全名称が一カ所残らず、最低これだけのご守護は頂いてもらいたい——

と言葉を結ばれた事を思い併せて考えると、いかにも私達の未成人の故に、をやの思いについて、いわゆるをやの足を引っ張っているような、誠に申し訳ない感じがするのは、私一人ではないと思います。

なるほど、をやは私達の成人の至らなさに対して、重荷をかけたらいずんでしまうように思われ、温かい親心で昨年と殆ど同じような心定めを与えて下さったのでしようが、私達は親の思いがどこにあるかを思案させて頂き、仰せ頂いたつとめを、それこそかんぜんにつとめ上げさせて頂くと共にそれ以上の実をご守護頂かねばなりません。

年頭にあたっての真柱様のお言葉の中にも、
——と季春は成人しやすい時をお与え頂いているが、成人しようという心がなければ、気持ちが悪ければならない。各自が成人しようと努力しなければならぬ——

とまで仰つて下さっています。

お互いやる気をもって何でもどうでも親に喜んで頂くように昨年の倍のつとめこそ、銘々の目標としてつとめさせて頂きたいものであります。

(大教会理事岸本敏明)

この年、「かさおか」誌一月、二月、五月号に、大教会史編纂略史を掲載。又一月号から十二月号に亘り、稿本笠岡大教会史年表(自寛政十年 至大正十四年を分載)

一月五日 稿本天理教教祖伝逸話編第一集発行(昭和五十年十月二十六日迄に第

四集発行)

二月二十六日 神昭分教会三代会長開地俊夫任命(二代会長開地和市辞任)

就任奉告祭・四月九日

二月二十六日 神昭分教会附属建物増改築

三月二十一日 月次祭に併せて祭典後、少年会本部委員長・中森芳次先生を迎え、

縦の伝道講習会

三月二十六日 西村分教会建築模様替

三月二十六日 揚素分教会二代会長吉岡宣弘任命(初代会長吉岡慶一辞任)

就任奉告祭・五月十日

三月二十六日 福廣分教会四代会会長榎田友一任命(三代会会長佐々木サダ 昭和四

十九年一月五日出直)

就任奉告祭・五月一日

三月二十六日 鶴南分教会御目標様再下附

三月二十六日 鶴南分教会移転

旧所在地・岡山県津山市南町一丁目百九

新所在地・岡山県津山市宇大熊ノ南百三十九番五

鎮座祭・四月六日

奉告祭・四月七日

三月二十七日 第十二回春季英語講習会開催(二二〇人 三〇日まで)

五月一日 教祖九十年祭地方講習会始まる(七月二十一日まで)

五月五日 少年会笠岡少年大会開催(四〇〇人)

五月二十一日 月次祭祭典後 午後会長宅庭園で園遊会(八〇〇人)

五月二十二日 婦人会本部委員・中川英子先生を迎え婦人会笠岡支部婦人よふぼ

く大会挙行(八〇〇人)

五月二十六日 上父分教会移転建築

旧所在地…広島県神石郡三和町小島甲四百十九の一

新所在地…広島県神石郡三和町大字上二千七百六十三

鎮座祭…昭和五十年十一月五日

奉告祭…昭和五十年十一月六日

七月十五日 大教会承事・興明分教会三代会長吉岡セキ出直(七十五歳)

七月二十五日 こどもおぢばがえり第一団出発(高屋・久松 二十八日まで)

七月二十八日 こどもおぢばがえり第二団出発(神邊 三十一日まで)

七月三十日 こどもおぢばがえり第三団出発(福山 八月二日まで)

八月一日 こどもおぢばがえり第四団出発(直轄・玉島 四日まで)

八月八日 ハワイ青年大会開催(道友社勤務の上原繁道同行取材)

八月十六日 第十三回夏季英語講習会開催(二三〇人 十九日まで)

八月二十六日 大江橋分教会移転建築

旧所在地…広島県高田郡吉田町大字吉田甲五百十一番地の四

新所在地…広島県高田郡吉田町大字吉田甲五百十一番地五

鎮座祭…昭和五十二年九月四日

奉告祭…昭和五十二年九月五日

九月一日 三代会長 教会長任命講習会講師を委嘱される

九月二十六日 興明分教会三代会長吉岡壽任命(二代会長吉岡セキ出直)

就任奉告祭…十二月四日

九月二十六日 福昭分教会四代会長平盛隼美任命(三代会長平盛オイチ辞任)

就任奉告祭…十一月十日

九月二十六日 福春分教会四代会長北村アタコ任命(三代会長山口政一辞任)

就任奉告祭…十二月一日

九月二十六日 美ノ郷分教会二代会長桑田正則任命(初代会長桑田正夫辞任)

就任奉告祭…十二月八日

九月二十六日 西伯分教会三代会長本多一男任命(二代会長本多常太郎辞任)

就任奉告祭…十二月四日

九月二十六日 輝伯分教会五代会長砂流勲任命(四代会長砂流アキノ 昭和四十九年四月十六日出直)

九年四月十六日出直

十月二十一日 婦人会笠岡支部の母親講座を講師に馬関分教会長・安部栄治郎先生を迎え開催(五〇〇人)

生を迎え開催(五〇〇人)

十月二十六日 金霽分教会四代会長小池宏一任命(三代会長河原スキヨ 昭和二十一年三月五日出直)

十一年三月五日出直

十月二十六日 金霽分教会移転

旧所在地…広島県呉市神田町十三丁目十一番地第一第二

新所在地…広島県福山市奈良津町甲八百十四番値の一

鎮座祭…十一月七日

奉告祭…十一月八日

十月二十六日 金霽分教会を久津分教会と改称 芸備分教会から笠岡大教会へ

所属変更

十月二十六日 金霽分教会恒例祭日変更(毎月九日―??日)

十月二十六日 湯田原分教会附属建物増築

十一月二十一日 驛家分教会所属変更(服部分教会から神邊分教会)

十一月二十六日 川島郷分教会建築模様替

十一月二十六日 川島郷分教会臨時祭典日変更

鎮座祭…昭和五十一年十二月八日

奉告祭…昭和五十一年十二月九日

十一月二十六日 海松ヶ岡分教会移転

旧所在地…岡山県笠岡市笠岡七百九十四番値

新所在地…岡山県笠岡市笠岡五千七十七番値

鎮座祭…十二月十日

奉告祭…十二月十二日

十一月二十六日 三代会長上原繁雄 検定会委員委嘱される

この年、五月一日から七月二十一日まで教祖九十年祭地方講習会が開催された。また青年会では、ハワイで青年大会が開催され、日本から多数の青年会員が出席参加した。一月五日には稿本・天理教祖伝逸話編の第一集が刊行され翌昭和五十年十月二十六日にかけて第四集までが出版された。後に一冊に纏められ、天理教祖伝逸話編として出版される。教祖九十年祭活動三年千日の中の年として、活発な布教活動が展開された。

この年の大教会年間統計 初席者八百二十九人 おさづけの理拝戴者四百八十五人 修養科修了者百七十六人 教人登録百三十五人 教人総数二千九十九人 よふぼく総数九千三百十六人。全教よふぼく総数七十万八十四人。

昭和五十年(立教百三十八年・1975年) 教祖九十年祭三年千日第三年目

一月二十六日 教祖九十年祭おやさと講習会開催(全教会長対象)
一月二十九日 おてふり祭儀式地方研修会 各地で開催
二月五日 中山せつ様三十年祭執行
二月九日 インドで布教公認
四月十四日 三代会長 中華民国總統蒋介石氏国葬に参列
四月十八日 三代会長夫人・上原くにる つとめ人衆のおゆるし頂く
五月二十六日 今津野分教会三代会長佐藤馨任命(二代会長東風上春夫辞任)
五月十二日 マールブルグ天理教展覧会開催(西ドイツ 六月十五日まで)
五月二十四日 かんろだいすえかえ之儀
五月二十六日 今津野分教会移転

旧所在地…広島県御調郡大字津蟹六百四十七番地
新所在地…広島県三原市八幡町本庄七百四十五番地の二

鎮座祭…七月五日

奉告祭…七月六日

五月二十六日 今津野分教会を府庄分教会と改称

六月二十九日 おやさとやかた南左第一棟竣工

七月三十一日 大教会理事・島根分教会四代会長門脇一教出直(七八歳)

八月二日 大教会准承事・米府分教会三代会長三代齋世出直(七七歳)

八月二十六日 八尋分教会附属建物増築

九月二十五日 笠岡詰所増築

九月二十八日 教祖九十年祭決起の集い挙行(五万人)

九月二十九日 おやさとやかた北左第四棟竣工

十月十六日 おやさとやかた西左第三棟竣工

十月二十六日 作備分教会移転

旧所在地…岡山県笠岡市笠岡五千七十七番地

新所在地…岡山県笠岡市笠岡七百九十四番地二

鎮座祭…十二月六日

奉告祭…十二月七日

十月二十六日 三代会長上原繁雄 著書「おふでさき御話」出版

十一月九日 シンガポール出張所神殿落成奉告祭

十一月二十日 大教会承事・吸江分教会三代会長赤木利行出直(六一歳)

十一月二十六日 錦洋分教会神殿及附属建物増築

十一月二十六日 陽實分教会四代会長藤川テルヨ任命(三代会長佐藤正一 昭和五十年九月十二日出直)

就任奉告祭…十二月十一日

十一月二十六日 香地華分教会二代会長瀬良トシ任命(初代会長渡邊勇 昭和五十年六月二十六日出直)

就任奉告祭…十二月八日

十一月二十六日 三郡分教会三代会長貞清實任命(二代会長貞清鹿雄辞任)

就任奉告祭…十二月七日

十二月二十六日 福輝分教会三代会長宮崎可夫任命(二代会長宮崎ハツノ辞任)
就任奉告祭…昭和五十一年三月七日

教祖九十年祭前年の年、五月二十四日にはかんろだいすえかえ之儀が行われた。またおやさとかたは南左第一棟(六月二十九日)、北左第四棟(九月二十九日)、西左第三棟(十月十六日)がそれぞれ竣工した。海外事情では二月九日インドで布教公認、西ドイツのマールブルグで天理教展覧会が開催され、十一月九日シンガポール出張所の神殿が落成した。

この年の大教会年間統計 初席者八百三十七人 おさづけの理拝戴者五百九十三人 修養科修了者二百四十二人 教人登録百七十五人 教人総数二千二百六十一人 よふぼく総数九千七百七十二人。全教よふぼく総数七十二万一千八百八十五人。

昭和五十一年(立教百三十九年・1976年)

一月九日 大教会年頭会議開催での大教会長様のお話(要旨)

1、教会内容の充実という目標を掲げ、大いなる親心をおかけ頂いた三年千日であるが、果たしてその親心にお応えできる姿に書く教会が成人できたであろうか。

2、教祖九十年祭は百年祭の土台であるということ、はつきりと心に治めて活動してきたかどうか。

3、書く教会の今日の姿に伏せ込まれた初代の荒道を、私たちは誠実に今の道の上に生かし切っているかどうか。

第一の点については部内教会全部のことを考えると理想の姿には、まだ程遠いものがある。書く教会のなお一層の邁進を促したい。

第二点については、教祖九十年祭に居合わせて頂くお互いは、その喜

びをもっと深く味わい、成人の塚とさせて頂きたい。教祖九十年祭は百年祭という建物の土台であるから、もし教祖九十年祭に思召に添えなかつたら百年祭にも添いきることができないのではないかと

第三点については、初代はこの教会も食べるに物なき道をのすがら歩み、その難儀な中を「教祖ひながたを思えば、こんな苦勞が何であるか」と苦勞を楽しんで通られた。そういう初代の思いを私たちは今の教会の結構な姿の中に忘れ去ってはいないだろうか。たすけ一条の有難い道を通して頂いているお互いは、初代が丹精してくれた教会の役員、よふぼく信者を一層安静させて頂くような通り方をして頂きたい。こうしたお話の後、大教会町様は今年の大教会のご本部へのご用、さらに一層のかしものかりもの袋の活用徹底などについて話され、部内教会の今年のために関しては、初席五人、おさづけの理拝戴者五人、修養科生三人、教人登録二人を最低目標に励んで頂きたい。また布教所に関しては初席者三人、おさづけの理拝戴者二人を目標にして頂きたい。この点に関して大教会長様は昨年一年の部内教会を含めた大教会としての働きを振り返られ、修養科生数のみが目標に達しただけであると話され、今年一年の一層の奮起を促された。さらに、百年祭にはおやさとかた普請に関して、今まで通りの棟数と共に、これまで御守護頂けなかった隅棟の一つを完成したい、そのためには昭和五十五年までに各大教会、部内教会の普請などは終了するようにとのご本部の意向を話され大教会としては、それまでには是非母屋建築のご守護を頂きたいと述べられた。

一月二十六日 教祖九十年祭祭典執行(二月十八日まで)

一月二十六日 吸江分教会四代会長赤木由枝任命(三代会長赤木利行出直)

就任奉告祭…四月十一日

三月二十一日 大教会役員任命

准承事…中村英夫 上原繁道

五月二十六日 瑞雲分教会三代会長西村道榮任命(二代会長西村精一郎辞任)

就任奉告祭…六月六日

五月二十六日 油水分教会五代会長黒瀬修武氏任命(四代会長川上クシヨ辞任)

就任奉告祭…七月五日

五月二十六日 東城分教会五代会長横山道明任命(四代会長横山広志辞任)

就任奉告祭…八月十五日

五月三十日 三会長夫妻アメリカ巡教(八月九日まで)またアメリカ伝道庁修養

会講師をとめる

六月二十二日 婦人会長様、山田愛子、井筒しまへ両先生を迎え笠岡支部総会

開催(二五〇〇人)

七月三日 高千恵布教所長・岡崎春枝出直(六七歳)

七月七日 三代会長上原繁雄 アメリカ修養会講師を勤める(八月一日まで)

七月二十六日 六甲分教会四代会長山田麗子任命(三代会長山田貢 昭和五十一年四月三日出直)

就任奉告祭…九月五日

七月三十一日 大教会理事・岡崎壽夫夫人岡崎カツ出直(九二歳)

八月二十一日 布教要員実修会開催(二四日まで 五二人参加)

九月二日 本部神殿北礼拝場 放火により被災

九月二十六日 大恵山分教会移転建築

旧所在地…岡山県井原市大江町二十三番地

新所在地…岡山県井原市下稲木町四百八十八番地

鎮座祭…昭和五十二年十一月十二日

奉告祭…昭和五十二年十一月十三日

十月二十六日 福芦分教会附属建物増築及内部改造

十月三十日 教会長対象に布教実修会開催(一月一日まで)

十一月二日 教会長対象に布教実修会開催(一月四日まで)

十一月二十六日 阿知分教会三代会長鳥越祥典任命(二代会長鳥越信衛辞任)

就任奉告祭…十二月五日

十一月二十六日 品治分教会三代会長渡邊眞次任命(二代会長渡邊スミエ辞任)

就任奉告祭…昭和五十二年二月六日

十一月三十日 教会長対象に第三回布教実修会開催(二月二日まで)
十二月二十七日 母屋ふしん 真柱様から御内諾頂く

この年、全直轄教会で布教実修会開催

教祖九十年祭の年であった。大教会の帰参者受け入れ係分担表、詰所受け入れひのきしん出動者、教祖九十年祭特別ひのきしん隊出動者、九十年祭帰参団体一覽などに関しては、「かさおか」第16巻第三号に、また全教の動きについては、同じく第三号に概略が記されているので、参照頂きたい。

この年の大教会年間統計 初席者六百三十七人 おさづけの理拝戴者四百四十人 修養科修了者百六十三人 教人登録百三十八人 教人総数二千三百六十三人 よふぼく総数九千七百八十五人。全教よふぼく総数七十四万七千六百七十三人。